年頭に思う

生きがいのある地域社会をめざして

熊本県知事
沢田一精

明けましておめでとうございます。昭和五十三年の年頭に当たり、つつしんで新春のご挨拶を申し上げます。

新年を迎えこの一年を展望し、決意を新たにするのが昔からのならわしでありますが、昭和五十三年を見通してみますときに、私共をとりまく情勢は極めて厳しいものがあるといわざるをえません。

昨年はわが国経済にとって安定成長時代へのかけ橋となるべき年だといわれながら、今振り返って見ますとき、安定成長の軌道に乗ったということは難しいところであります。また、諸外国との貿易、通貨面での軋轢に加えさらに二〇〇カイリ時代への突入などに示されますように、我が国をとりまく国際環境はまことに厳しいものがあります。

経済問題を初めとするこのような問題につきましては、五十三年においても、解決の目途がそう簡単につくとも思えません。特に、これらの問題が、私達が今まで経験したものではなく、全く初めて体験するものであるという点が現在の情勢の特徴ではないかと存じます。

問題に対処するための過去の先例、他国の類例というものがないわけです。そのため、私達が一歩一歩、英知を出し合い、主体性をもって、新しい途を切り拓いていかなければなりません。

これからの時代においては、もちろん、物質的な成長も、社会を支える基盤として必要なものではありますが、単に量的拡大を目指すものではなく、あくまでも、窮極の目的である生活の真の豊かさ、人間として真に幸せに生きることを目標として、各般の施策を進めていく必要があると思います。

私は、県政の基本理念として、県民すべての協力で新しいふるさとづくりを提唱してまいりましたがこれから予想される厳しい情勢を考えますとき、この新しいふるさとづくりの理念を推し進めていくことの必要性をますます強く感じます。県政の全般にわたり、人間の心を中心とした施策に目を向け、県民の皆様の協力を得ながら、このような困難な時期に対処する新しい方向を見出していきたいと考えております。

「新しいふるさとづくり」として、私は、具体的には、第一に美しい自然を大事にしながら豊かな生活環境をつくっていこう。第二にすぐれた文化伝統を大事にしていこう。第三に活力ある産業を展開していこう。第四に地域的な連帯感を育成していこうという四つのことを申し上げております。こういうことをまた、ここでことさら申しあげるのは、経済的な面での充実が当面あまり期待できないというような消極的な意味ではなく、このような時期にあってこそ、どうすれば県民すべてが生きがいをもって幸せに暮らしていけるのか、どうすればすべての人格が尊重され、誇りをもって生活していけるのかを根本的に問い直す必要があると思うからです。

昨年十一月、国において第三次全国総合開発計画が決定されました。その内容については新聞等でも紹介されていますが、その基本目標として次のように述べられています。

「限られた国土資源を前提として、地域特性を生かしつつ、歴史的、伝統的文化に根ざし、人間と自然の調和の上に立った安定感のある健康で文化的な人間居住の総合的環境を計画的に整備することを基本的目標とする。」

このように、人間性を重視し、環境との調和を強調する基本目標については、当然のこととはいえ、高く評価したいと思いますが、少なくとも熊本県においては、従来から、そのような方向を目指していたという自負を持つものであり、国においてその実現のための積極的かつ有効な施策を講じられることを期待したいと思います。

熊本県についてみた場合、全国の他の地域にくらべるとまだ明るい材料が多いようです。もちろん、全般の景気回復の遅れと軌を一にして深刻な問題を抱えている分野もあり、そういう業種の関係者の方々のご苦心は並み大抵のものではないと察しますが、県全体の経済動向等からみた場合比較的順調に推移しているといえると思います。経済成長率は、ここ数年常に国の成長率を上回る数字を示しています。一人当たり県民所得も、昭和五十年度で全国第四十位ですが着実に上昇を示しており、対全国格差も縮まりつつあります。五十一年度、五十二年度の数字が出れば一層の改善がみられることと思われます。

また人口についても、昭和三十年の百九十万人という水準にはまだしばらく間があるにしても、昭和四十八年以来毎年増加を続けています。

次に、直接県政の課題というわけではありませんが非常に関係の深い問題として、九州開発促進計画の問題があります。

これは前述のとおり昨秋、三全総が決定され、国においては新しい理念に立って開発行政が展開されることになった訳ですが、これを基本として九州地方についての計画が作られることになったものであります。三全総関連の資料の内容をみてもそう思うわけですがこれまでの国の開発政策、投資態度において、九州特に南九州はかなり遅れているというか、力の集中が弱かったという感がします。これは、特に経済の高度成長期において目先の投資効果ばかりに気をとられた結果ということができると思いますが、三全総でも理念とされている国土の均衡ある発展ということを考えるなら九州特に南九州に投資を傾斜的に配分する必要があると思っています。三全総においても国土の均衡ある発展といいながら、開発の重点をむしろ北海道、東北においているように感じます。このブロックごとの計画立案の過程で是非南九州への投資の重点的配分を打ち出してもらいたいと考えます。

次に、具体的な話しになってまいりますが、交通ネットワークの基盤づくりです。九州の中央に位置するという地理的有利性を生かし、九州の拠点として発展していくためには基幹的な交通施設の整備を積極的に進めていく必要があります。

まず第一に熊本港の建設です。熊本港は、物資流通の拠点をつくるために是非必要なもので、近い将来、ますます交流交易が盛んになると予想される中国や東南アジア等とも近く、その貿易の窓口を開くためにも必要なものです。このため、漁業協同組合等関係者との話し合いを進め、一日も早い